

活動名	平成 25 年度 森林・水産研究会 現地見学会 (CPD 番号 25-7)
主催	岩手県支部 森林・水産研究会
日時	平成 25 年 9 月 28 日 (土) 11:15 ~ 14:30
場所	岩手県一関市巖美町須川岳国有林 230 林班外, 国道 342 号沿い
参加人数等	9 人 (本部会員 5 名 非会員 1 名 技術士以外 3 名)

活動内容

1) 産女川源流部の現況見学

(講師：(株)メック東日本 小原 参与)  
産女川は岩手・宮城内陸地震の際に土石流を伴う大崩壊が発生し、未だに溪流内に大量の不安定土塊が残存している。これまで、緊急的に大規模なセルダムやコンクリートダムが整備されているが、昨年の豪雨等により、度々土石流が発生しており、現在最終的な溪流保全に向けた全体計画を策定中とのこと。土石流の発生源である源流部および岩手県で最も大きい崩壊地である産女川の大崩壊地を直下から眺望し、意見交換を行うことで見識を深めた。



産女川源流部大崩壊地と溪流荒廃状況

2) 国道 342 号および市野々原民有林事業の復旧状況見学

(講師：国土防災技術(株) 佐藤 総括課長 (株)メック東日本 佐藤 営業所長)  
震央に近く、最も被害箇所が多かった国道 342 号を西進し、山腹崩壊箇所の復旧状況を見学するとともに、国道の復旧状況についても見学し、その見識を深めた。なお、現在供用されている祭時大橋は実は 3 代目で、地震で被災した祭時大橋が施工される前は、林野庁で整備した小さなトラス橋が供用されていたとのこと。



祭時大橋直下の古いトラス橋

3) 須川高原での植生見学, および山腹崩壊地群の眺望

(講師：(株)メック東日本 小原 参与)  
栗駒山系生態系保護区域に指定されている須川高原の植生を見学することで、森林業務に密接に関連する貴重な生態系について見識を深めた。また、須川高原から震央域付近の山腹崩壊地群を眺望し、意見交換を行った。なお、見学会当日、須川高原付近は多くの登山客や温泉目当ての観光客で賑わっており、数多くの技術者の尽力により地震前の活気が戻ってきたことを体感した。



須川高原の植生見学, 山腹崩壊地群の眺望